

本日の講演会の内容

第一部 海技研研究成果の紹介

研究所の研究成果の内、開発、実証または実用化の段階にあるものをご紹介

実現進むスーパーエコシップ

I M O と国際的動向を読む

曲げの職人芸を科学する ぎょう鉄技能の伝承

よみがえるスターリングエンジン

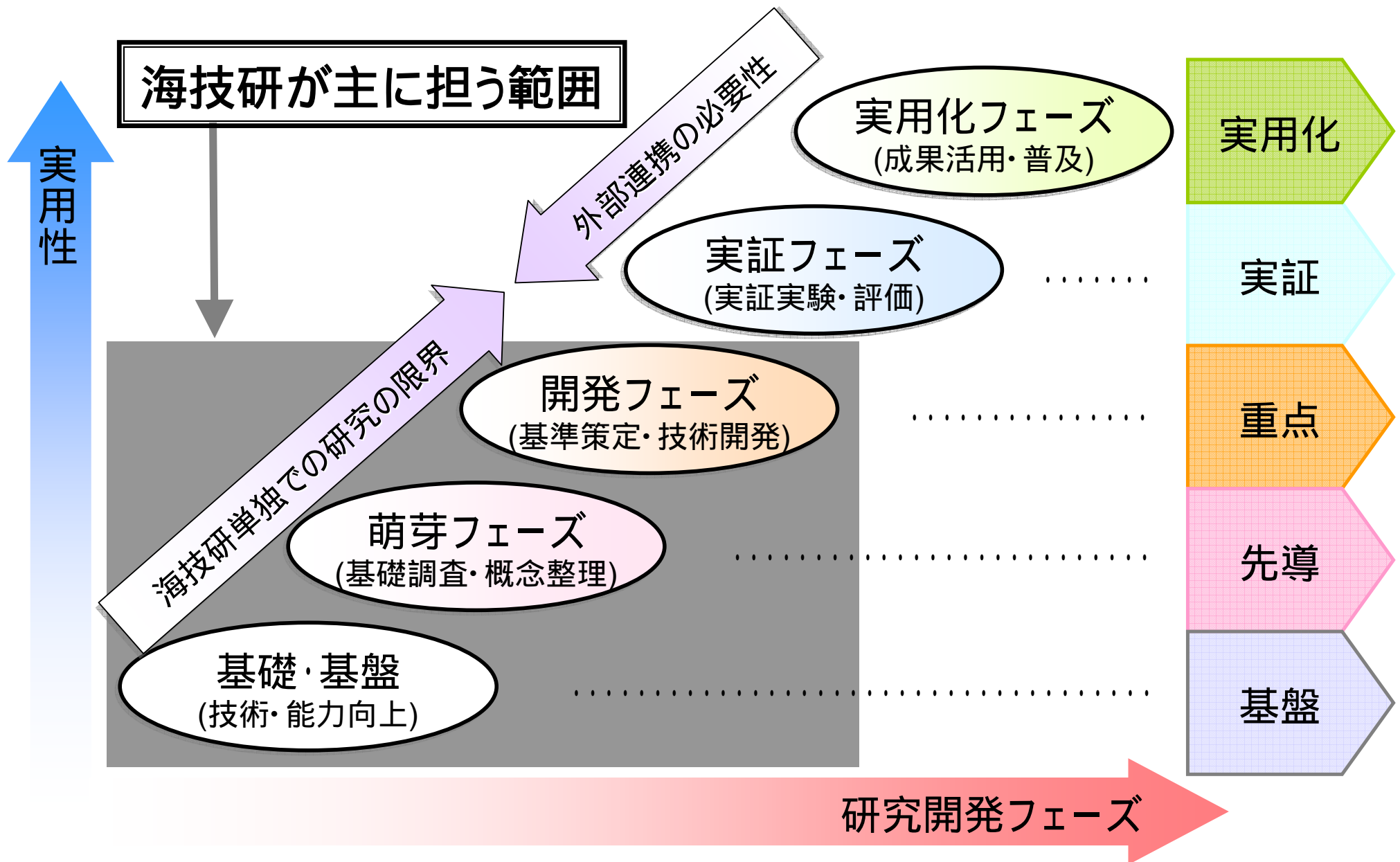
第二部 海事技術のあり方について

今後の海事技術、産学官の役割等のご議論

海事技術行政の戦略（国土交通省海事局 坂下企画課長）

我が国の海事技術の展望（パネルディスカッション）

研究開発フェーズ



海技研が主に実施する研究の内容

重点研究

第2期中期計画に掲げる重要課題に係る研究

交付金研究費
の6割を配分

重点課題の確
実な処理

先導研究

社会ニーズ・トレンド、内外の技術開発情報の分析結果等に基づく中長期課題分野において実施

交付金研究費
の1割を配分

第3期課題等へ
の対応

基盤研究

重点研究、先導研究の実施にあたり、研究所の技術リソースのうち、弱い部分を底上げ等するための研究

交付金研究費
の3割を配分

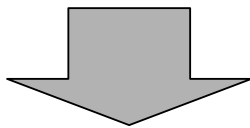
技術ポテンシャルの向上

ぎょう鉄技能の伝承をめぐる環境

社会ニーズ

少子高齢化

若年労働者の減少



技能伝承

伝承方法の普
遍化・簡素化

研究シーズ

デジタル技術による3次元
元曲げ加工方法の体系
化等
(溶断・溶接工学、曲面
幾何学のシーズ活用)

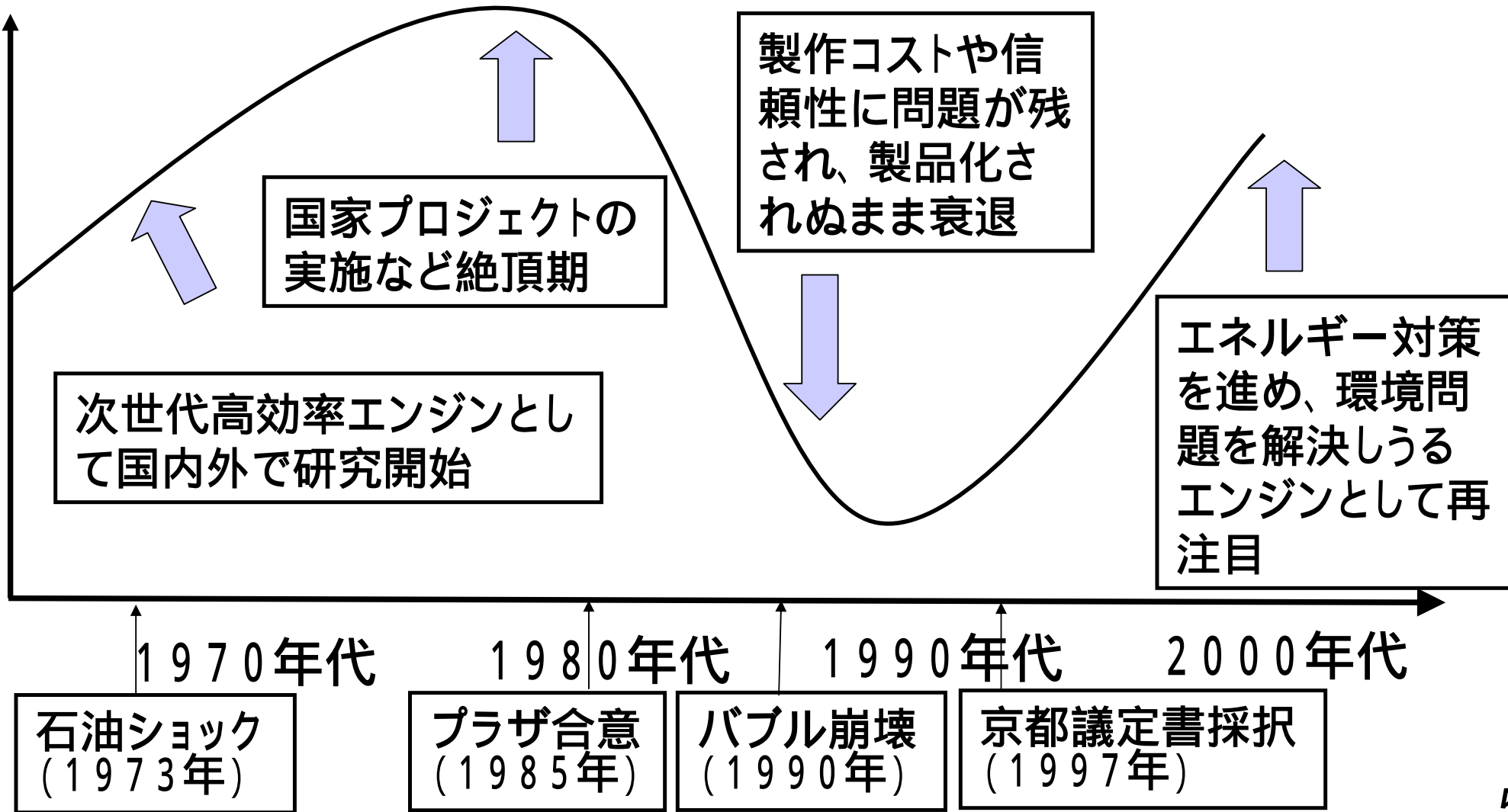
ニーズに
マッチ

教訓

担当研究者(観察力、分析抽出力、シーズ展開力)

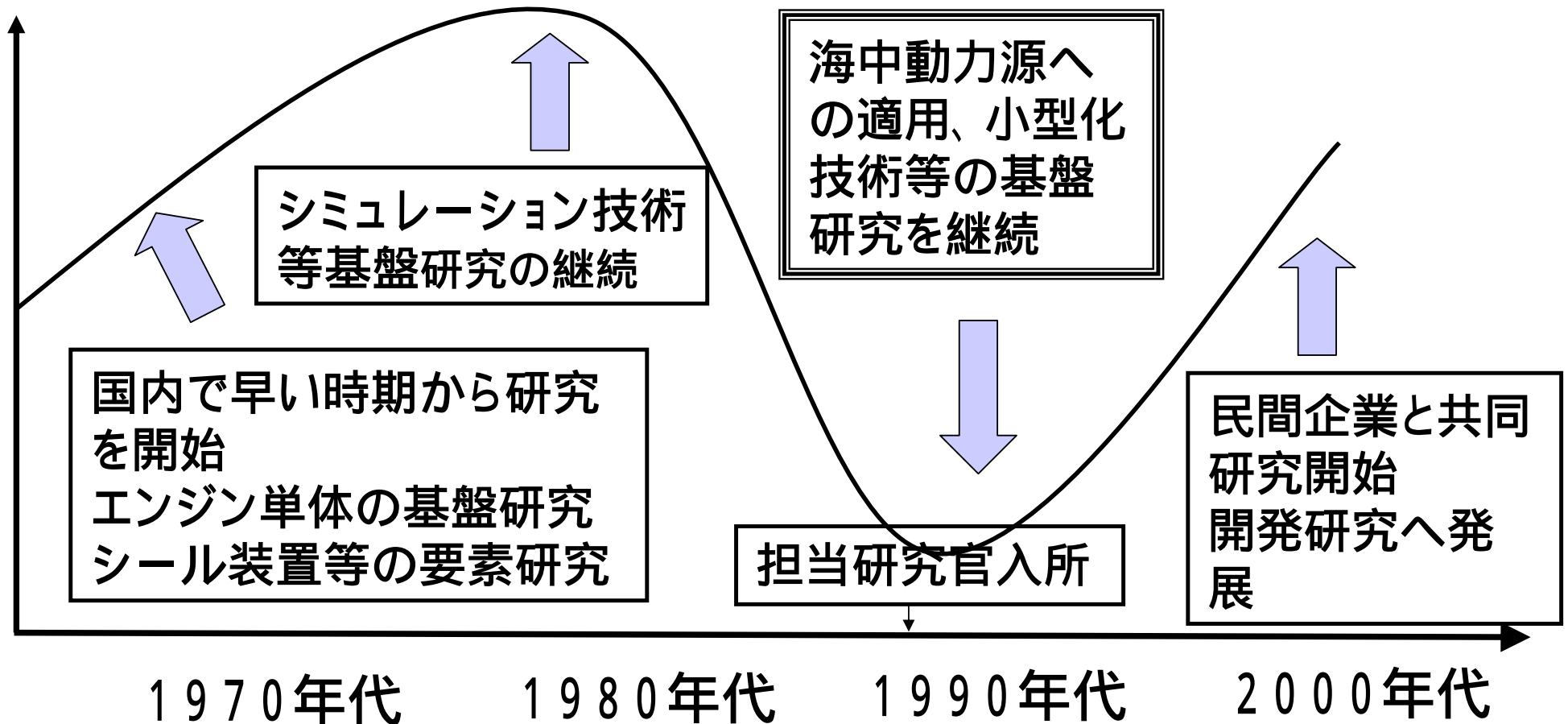
スターリングエンジンの研究の盛衰

社会の関心度



スターリングエンジンの研究の盛衰 (海技研における取り組み)

研究所の関心度



民間との共同開発に至った背景

研究者の熱意(シーズの潜在可能性を確信)

論文等成果の発信が質量ともに豊富、「小型化」
「低コスト」等のキーワード挿入

基盤研究、萌芽研究ではあったが、実用化を想定した研究を実施

独法化による、制度の整備と意識改革の定着により、民間との共同開発が容易に実施

シーズを埋もれたままにしないために 次期中期計画においてとる措置

分野

キー

措置

企画業務

・社会ニーズと研究
シーズのマッチング

・ニーズ調査機能の充実
・シーズ研究の戦略立案機能
の付加

研究業務

・将来性のある研究
シーズの発掘
・人材育成
・一定の研究資源の
投入

・共通のエンジニアリングバック
グラウンドで研究部門を再編
・研究部門長主導の資源配分

運営管理
業務

・論文、書籍、インタ
ーネット等情報発
信の充実

・研究情報発信量の拡大
・情報発信部門の強化